

H-1:産学官連携

開催日時・会場 9月18日(金曜日) 9:00 - 10:30 会場C

組織的な産学連携を本格化させる方策とは？

研究力強化活動の一つである産学連携は、通常新技術の開発や新事業の開拓を目的に行われる大学と企業間の共同研究と同意語で使われることが多いが、最近共同研究を契機とする人材交流や社員教育、研究設備の共用、若手研究者の育成の場としての活用、連携のハブ機能を担う拠点の形成、など、研究基盤の強化に繋がる活動に広がりつつある。

本セッションでは、共同研究を契機とする新たな研究力強化の取り組みに関する事例紹介を交えて、産学連携が組織の研究力強化に齎す効果と課題を共有し、組織的な産学連携に発展させるためにURAが担う役割や方策について議論する。

セッション参加者が、共同研究を入口とした様々な活動の可能性を議論することにより、組織的な産学連携へ発展させる方策の気づきを得る一助となることを期待する。

本セッションでは組織的連携へいかに発展させるかについて注目し、課題を提示することでH-2セッションへと繋げる。Hセッション全体で産学連携に関する一連の議論ができるように構成する予定である。

セッション担当者・登壇者

樋口 隆信：電気通信大学 研究戦略統括室
URA(特任准教授)



民間企業にて光学デバイスとシステムの研究開発およびマネジメント業務に長く従事した後、URAに転身。2019年電気通信大学URA(特任准教授)に着任。主に産学官連携支援、競争的資金獲得支援、研究力強化戦略の立案、等の業務を担当している。博士(工学)。

登壇者

徳田 加奈:福井大学 産学官連携本部
URA

2014年福井大学URA着任。主に外部資金獲得支援、研究プロジェクト企画・運営支援、産学連携・地域連携コーディネート、研究IR等の業務を担当している。

米澤 恵一郎:九州工業大学 オープンイノベーション推進機構
産学官連携本部 准教授(専門職)



千葉大学で超高真空装置を活用した有機半導体電子物性研究を行い、博士(理学)を取得。学振DC2の切り替えで1年間、学振PDとして分子科学研究所に勤務。その後、元々興味があった研究支援者として九州工業大学に着任。現在4年目。基盤研究から社会実装支援まで一貫した支援、「横串型支援」をモットーに業務に取り組んでいる。現在JSTPM研修第2ステージ研修生。7月1日からはJSTのイノベーションプランナーとしても活動。

根本 靖久:東北大学 研究推進支援機構URAセンター
副理事/首席URA/特任(運営)教授

東北大学医学研究科、学振特別研究員(DC,PD)等を経て、製薬企業での研究企画、技術の目利き、新規事業立上げ、ベンチャー経営等を経て、東北大学本部URAセンター立上げ、研究大学強化促進事業・COI東北拠点のプレアワード他企画運営等に関与。内閣府CSTI第1期上席科学技術政策フェローを3年半兼務。現在は研究力強化や次期研究拠点企画に向けた学際融合研究支援、シーズ育成、起業育成支援、大型産連支援等の実務全般を手掛ける。